



学校から家庭へ、地域から地域へ、そして世代から世代へ。

ボタンをパスするように、いろいろな“学び”の姿をお伝えする教育プレス。保護者の皆さんへ教育のあれこれをお知らせします。



今回は、本年4月に新しく熊本県教育長に就任した
山本 隆生教育長に、抱負や教育についての思いを伺いました。

Q1 就任にあたっての抱負はいかがですか。

・子どもたちの学ぶ意欲を引き出し、豊かな心を育む、熊本ならではの教育の充実を図っていきたくと考えています。

Q2 どのような取り組みを考えておられますか。

- ・しっかりと教育の実(じつ)が上がっていくようなことを実行し、成果が上がっているということ子どもたちや先生方に検証してほしいと思っています。
- ・先生が忙しすぎて子どもと向き合える時間がとれないということを知っているので、学校に向向いて現場の先生方から直接話を聞き、方策を考えていきたいと思っています。

Q4 高校再編問題については、どのようなお考えですか。

- ・著しい少子化とそれに伴う学校の小規模化が進む中で、県立高校の再編整備は避けられない課題と考えます。今後もそれぞれの地域の様々な意見や考え方を丁寧にお聞きし、しっかりと意見交換をしていく予定ですので、積極的な提案をお願いしたいと思います。
- ・来年度から、県内公立学校では初めてとなる中高一貫校を宇土高校と八代高校に開校します。中学から高校の6年間にわたる計画的・継続的指導によって、生徒の個性をより伸ばす教育を行います。

Q5 その他、今後の課題で重要と思われるところは？

(学力向上)

・教育の目的として、子どもたちが「生きる力」を身につけること、中でも学力を確実に向上させることは、大きな課題だと思っています。基本的な知識・技能をしっかりと定着させながら、本県独自の学力調査や全国学力調査の結果を活用して、さらに、問題解決を図るための思考力、応用力を育成します。

(文化財・文化遺産)

・6月に国宝となった青井阿蘇神社(人吉市)や重要文化的景観に選定された通潤橋と白糸台地(山都町)などの文化財は、郷土の誇りであり子どもたちにも良い学習材料となります。鞠智城跡(山鹿市)の国営公園化、阿蘇や天草などの世界文化遺産登録も含め、熊本の歴史文化に光が当たるよう積極的に取り組んでいきたいと思っています。



山本 隆生 新県教育長 インタビュー

《経歴》
昭和26(1951)年生まれ
菊池市出身 九州大学法学部卒
昭和48(1973)年 熊本県入庁
以後、知事部局の総務や企画分野を経て、平成20(2008)年4月25日、農林水産部長から教育長へ就任。
子どもに関わる行政は、健康福祉部児童家庭課長の経験がある。

《趣味》
ゴルフ、読書、家庭菜園、料理。
学生時代は、主に吹奏楽部に所属し、サクソ、クラリネットを担当。

Q3 教育振興基本計画についてお聞かせください。

・熊本県の今後5年間の教育の振興策はこういったものだという、県民の皆様にも納得いただけるような、いわばバイブルとなる計画を今年度中に策定することとしています。



蒲島知事による「出前ゼミ」がスタート



このほど、知事の体験談を通じて児童生徒に「夢を持つことの大切さ」を伝える「知事出前ゼミ」がスタートしました。

第1回目の出前ゼミを平成20年6月2日(月)に県立熊本農業高校で実施しましたが、知事は、アメリカでの留学経験などを通じて、「人間の可能性は無限大である。」「逆境の中にこそ夢がある。」ことを信じて「退路を断ち、夢に向かって一歩踏み出すこと」「周りの期待値を超えること」の大切さを生徒に語られました。



平成20年6月2日(月) 於：県立熊本農業高等学校

知事の講話終了後、生徒から「農業についてどのような施策をお考えですか。」などの質問があり、知事は「耕作放棄地を家畜の飼料や酒類の原料の生産などに活用したい。」などと抱負を答えられました。

最後に生徒を代表し、3年生の古谷君は「夢を持つことの大切さを知り、私たちのそれぞれの進路を具体的に考える機会となった。無限の可能性に挑み、夢を原動力に期待値を超えていけるよう頑張りたい。」と謝辞を述べました。